

ひ  
ごしよ  
つうかい  
ししん

日めくり  
(御書&通解&指針)

せいぎようしんぶんしゃ  
聖教新聞社 編 へん

ごしよ  
あした

御書と未来へ

いけだせんせい  
おく  
ししん

池田先生が贈る指針

(01)

こうべ 振 髪 揺 ころ 働 み 動 おおかせふ

頭をふればかみゆるぐ。心はたらけば身うごく。大風吹け

そうもく 静 だいち 動 たいかい 騒 きようしゆ

ば草木しずかならず。大地うごけば大海さわがし。教主

しやくそん たてまつ そうもく

釈尊をうごかし奉れば、ゆるがぬ草木やあるべき、さわ

みず

がぬ水やあるべき。

にちげんによぞうりゆうしやかぶつくようじ

(216 日眼女造立釈迦仏供養事 1610 ページ4行)

つうかい

# 「通解」

あたま ふ かみ ゆ ころ はたら からだ うご おおかせ ふ

頭を振れば髪が揺らぐ。心が働けば身体が動く。大風が吹けば

そうもく ゆ だいち うご たいかい さわ おな きようしゆしやくそん

草木も揺れる。大地が動けば大海も騒ぐ。同じように、教主釈尊

を動かせば、揺るがない草木があるだろうか、騒がない水があるだろうか。

池田先生が贈る指針

● 祈りからすべては始まる

妙法の祈りの力は計り知れない。一切をより良く変えゆく根源の力用である。小さく推し量つては損をする。広布の大願を起こし、大きく、強く、具体的に祈り、行動するのだ。友の幸福と世界の安穩を祈念する題目は、相手の

ほっしょう

かなら

とど

せいめい

おうてい

へんかく

きょう

法性に必ず届き、生命の奥底をも変革できる。

今日も

ごうじょう

いの

いき

かちそうぞう

強盛な祈りから勇んで価値創造を！

つき にし い ひがし て ひ ひがし い にし て  
月は西より出でて東を照らし、日は東より出でて西を照  
らす。仏法もまたもつてかくのごとし。正像には西より東  
む まっぼう ひがし にし ゆ  
に向かい、末法には東より西に往く。

けんぶつみらいき  
(037 顕仏未来記 610 ページ 5 行)

つうかい  
「通解」

つき にし で ひがし て ひ ひがし で にし て ぶっぼう  
月は西より出て東を照らし、日は東から出て西を照らす。仏法も  
おな しょうほう ぞうほうじだい にし ひがし  
また同じである。正法ならびに像法時代には、西のインドから東  
つた まっぼう ひがし にほん にし るふ  
へ伝わり、末法においては、東の日本から西へ流布していくのであ

る。

いけだせんせい おく ししん  
**池田先生が贈る指針**

●希望の哲理の“語りべ”に

たいよう だいぶつぼう ぜんせかい  
太陽の大仏法を全世界へ！

ぶつぼうせい かん いちえんぶだいこうふ みらい き じつげん そうか  
「仏法西還」「二閻浮提広布」の未来記を実現しゆく創価の

ほこ たか こんとん じだい じんるい ばんにん ひか  
誇りはあまりに高い。混沌の時代だ。人類は万人を光らせ

きぼう てつり ちようわ こうふく かち そうぞう にんげん しゆぎ  
る希望の哲理を、調和と幸福へ価値創造しゆく人間主義の

てつがく ききゆう かた ぶん へいわ たね ま  
哲学を、希求してやまない。語った分だけ、平和の種が蒔

かれる。

地涌じゆの“

語りかたべ”

として、

強つよき祈いのりと誠実せいじつの対話たいわ

を！

ほけきよう よにん 読 そうろう くち 言葉 読

法華經を余人のよみ候は、口ばかりことばばかりはよめ

こころ

こころ

み

しきしんにほうとも

ども心はよまず。心はよめども身によまず。色心二法共に

たつと そうら

あそばされたるこそ貴く候え。

つちろうごしよ

(231 土籠御書 1639 ページ 11 行)

つうかい

# 「通解」

ほか ひと ほけきよう よ くち ことば うえ よ

他の人が法華經を読むのは口ばかりで、言葉の上だけでは読んでも、

こころ よ こころ よ み よ しきしん

心では読まない。また、心で読んでも身で読まない。あなたが色心

にほう ほけきよう よ とうと

の二法にわたって法華經を読まれたことは尊いことである。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

きゅうどう

ともども

### ● 求道のドラマを共々に

しんじん

かんねん

げんじつ

か

ちようせん

信心は観念ではない。現実をよりよく変えゆく挑戦であ

じっせん

こうせんるふ

こうどう

なか

ごしよ

はい

り、実践である。広宣流布への行動の中で御書を拝するの

がっかい

ごしよ

み

よ

き

だい はってん

だ。学会は御書を身で読み切ってきたからこそ、大発展し

ほま

ぎようがく

にどう

いま

せかいじゅう

たのである。この誉れの「行学の二道」に今、世界中の

きゅうどう

どうし

と

く

とも

いの

とも

まな

とも

求道の同志が取り組んでいる。共に祈り、共に学び、共に

せいちょう

ひび

ごしよ

ひもと

にんげんかくめい

つづ

成長する―日々、御書を繙き、人間革命のドラマを綴り

— 151 —

しょうじ たいかい わた

生死の大海を渡らんことは、妙法蓮華經の船にあらずんば、

叶

かなうべからず。

しいじのしろうどのごしよ

(258 椎地四郎殿御書 1721 ページ 4 行)

つうかい

「通解」

しょうじ たいかい わた

生死の大海を渡るのは、妙法蓮華經の船でなければ叶わないの

みようほうれんげきよう ふね

かな

である。

いけだせんせい おく ししん

池田先生が贈る指針

せいめいそんげん    こうろ    ひら    せんちよう

## ●生命尊嚴の航路を開く船長に

しょうろうびようし    あらなみ    たれびと    さ

くのう    るてん

生老病死の荒波は、誰人も避けられない。この苦悩の流転

うみ    じんるい    じようらくがじよう    くず    こうふくきようがい    みちび

の海から、人類を常楽我浄の崩れざる幸福境涯へ導く

たいせん    みようほう    きぼう    ごくり    まな    かた    ひろ

大船こそ、妙法なのだ。この希望の極理を学び、語り弘め

せいしゆん    ちようせん    とうと    だいかくしん    たいわ    とも    なや

る青春の挑戦が、いかに尊いか。大確信の対話は友の悩

て    じだい    やみ    は    せいねん    せいめいそんげん

みを照らし、時代の闇を晴らす。わが青年よ、生命尊嚴の

へいわ    だいこうろ    ひら    キャプテン

平和の大航路を開く船長たれ！

ほけきよう いちげいつく と もの まさ た とお むか

法華經の一偈一句をも説かん者をば「当に起つて遠く迎う

まさ ほとけ うやま

どうり

べきこと、当に仏を敬うがごとくすべし」の道理なれば、

ほとけ たが うやま

仏のごとく互いに敬うべし。

まつのどのごへんじ じゅうしひぼう こと

(374 松野殿御返事 (十四誹謗の事) 1989 ページ 2 行)

つうかい

## 「通解」

ほけきよう いちげいつく と もの かなら た あ むか

法華經の一偈一句でも説く者は、「必ず立ち上がって迎えるべきで

ほとけ うやま

ほけきようかんぼつぽん

あり、まさに仏を敬うようにすべきである」(法華經勸発品)とい

どうり

ほとけ たが うやま

う道理があるので、 仏のように互いに敬いなさい。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

ちく ささ とも さいけいれい

### ●地区を支える同志に最敬礼

ごほんぶつ おお どお ほとけ ごと たが うやま さいごく にんげん

御本仏の仰せ通り、「仏の如く互いに敬う」最極の人間

そんけい れんたい われ ちく ちいきしやかい あんのん

尊敬の連帯は我らの地区にこそある。地域社会の安穏と

しんらい かなめ ちくぶちよう ちくじよせいぶちよう

信頼のオアシスだ。その要たる地区部長、地区女性部長を

とうと ほうゆう ふんとう みよう しょうらん まちが みな

はじめ尊き宝友の奮闘に、冥の照覧は間違いない。皆で

なかよ たた あ くどく ま きぼう

仲良く讃え合い、いよいよ功德を増しながら、希望のスク

あら じゆ とも

ラムに新たな地涌の友を！

(06)

ふきようらいはい

ぎよう

かいとうさぶつ

みなまさ

さぶつ

おし

不軽礼拝の行は「皆当作仏（皆当に作仏すべし）」と教うる

ゆえ じひ

が故に慈悲なり。

（095 御義口伝上下 1070 ページ 15 行）  
おんぎくでんじょうげ

つうかい

「通解」

ふきようぼさつ

らいはい

ぎよう

だれ

みな

かなら

じようぶうて

ほけきよう

不軽菩薩の礼拝の行は、「誰もが皆、必ず成仏できる」（法華経

ふきようほん

おし

じひ

不軽品）ことを教えているので、慈悲である。

いけだせんせい

おく

ししん

池田先生が贈る指針

しゃくぶく ぶつどうしゆぎよう きゆうきよく

## ●折伏は仏道修行の究極

とも こうぶく ねが ぶつぼうたいわ ふきようぼさつ らいはいぎよう

友の幸福を願う仏法対話は、不輕菩薩の札押行にほかな

あいて ぶつしょう しん おく かた ゆうき

らない。相手の仏性を信じて、臆さず語る。この勇気が

じひ つう かなら ぜんこん う しゃくぶく ぶつどうしゆぎよう

慈悲に通じ、必ず善根を植える。折伏こそ仏道修行の

きゆうきよく せんじん き じゆ せいしゆん ちようせん にんげんかくめい

究極なり。先陣を切る地涌の青春の挑戦が、人間革命

かんき まい ひろ へいわ きぼう とうと

の歓喜の舞を広げる。平和の希望はここにあるのだ。尊き

せいねんがいか れんたい みな おうえん

青年凱歌の連帯を、皆で応援しよう！

わ こしん みようほうれんげきよう ほんぞん たてまつ わ こ  
我が己心の妙法蓮華經を本尊とあがめ奉って、我が己  
しんちゆう ぶつしよう なんみようほうれんげきよう 呼 呼 あらわ たも  
心中の仏性、南無妙法蓮華經とよびよばれて顕れ給うと  
ほとけ い  
ころを仏とは云うなり。

ほつけしよしんじようぶつしよう  
(048 法華初心成仏抄 704 ページ 2 行)

つうかい  
「通解」

わたし じしん そな みようほうれんげきよう ほんぞん そんすう わたし  
私たち自身に具わる妙法蓮華經を本尊として尊崇して、私た  
じしん こころ なか ぶつしよう なんみようほうれんげきよう よ よ あらわ  
ち自身の心の中の仏性を南無妙法蓮華經と呼び、呼ばれて現れ  
ほとけ  
るものを仏というのである。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

### ●仏の大生命はわが胸中に

にんげん つよ かしこ よ ぶつぼう じしん そんごく そんざい たか

人間を強く賢く善くする仏法だ。自身を尊極な存在に高

しょうだいぎよう だいしようにん おな ほとけ だいせいめい われ

める唱題行だ。大聖人と同じ仏の大生命を、我らの

きようちゆう よ お だいもく つよ いの

胸中に呼び起こせる題目なのである。強き祈りで、

だいうちゆう へんまん みようほう りきゆう しんしん まんまん たた

大宇宙に遍満する妙法の力用を、わが心身に満々と湛え

ぼんてん たいしゃく ぶつぼさつ ぶつしよう ゆげん かてい

ゆくのだ！梵天・帝釈、仏菩薩の仏性を湧現させ、家庭

ちいき しゃかい だんこ そせい はどう

に地域に社会に断固として蘇生の波動を！

潮 干 満 つき い 入 なつ あき ふゆ

しおのひるとみつと、月の出ずるといって、夏と秋と、冬と

はる 堀 かなら そうい ぼんぷ ほとけ

春とのさかいには、必ず相違することあり。凡夫の仏にな

る、またかくのごとし。

ひようえのさかんどのごへんじ さんしようしま こと

(176 兵衛志殿御返事 (三障四魔の事) 1488 ページ 4 行)

つうかい

「通解」

しお ひ とき み とき つき で とき い とき なつ あき ふゆ はる

潮が干る時と満ちる時、月の出る時と入る時、夏と秋、冬と春と

きせつ さかいめ かなら そうい ぼんぷ

の季節の境目には、必ずそれまでとは相違することがある。凡夫が

ほとけ とき おな

仏になる時も、また同じである。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

くる とき にんげんかくめい こうき

### ● 苦しい時こそ人間革命の好機

じぶん いま おも

”なぜ自分が“ ”どうして今“ と、思いもよらぬ苦難があ

もつと くる とき

る。最も苦しいその時こそ「まことの時」であり、人間革命

こうき たいへん だいもく ししく ゆうき ふる

の好機である。大変であるほど、題目の師子吼で勇気を奮

お まえ すす きようこ ふくうん つ

い起こして前へ進むのだ。そこに強固な福運が生まれ、

きようがい ひら すべ いっしょうじようぶつ ひやくだい い

境涯が開かれる。全てを一生成仏への飛躍台と生かし

けんじゃ しんじん

ていくのが、賢者の信心なのだ。

にちれん

ごうじよう

おんこころざし

き

そうろう

日蓮よりも強盛の御志どもありと聞こえ候は、ひと

ただごと

きようしゆしやくそん

おのおの

みこころ

い

か

えに只事にあらず。教主釈尊の各の御心に入り替わら

たも

おも

かんるい お

がた

せ給うかと思えば、感涙押さえ難し。

かしかくほうぼうめつざいしよう

(196 呵責謗法滅罪抄 1531 ページ 6 行)

つうかい

「通解」

がた

にちれん

ごうじよう

しんじん

き

まった

(あなた方は) 日蓮よりも強盛な信心であると聞いたことは、全

ごと

きようしゆしやくそん

がたひとりひとり

こころ い

くだだ事ではない。教主釈尊が、あなた方一人一人のお心に入

か

おも

かんるい

おさ

り替わられたのではないか、と思えるので、感涙を抑えがたい。

いけだせんせい おく ししん  
**池田先生が贈る指針**

しら とも つよ  
● ”ヤング白ゆり“ の友よ強く

だいなん なか しんこう つらぬ にちげんによ さいだい たた  
大難の中、信仰を貫いた日眼女たちを最大に讃えられて

いま しら せだい しごと かじ いくじとうとう  
いる。今の“ヤング白ゆり世代”だ。仕事や家事、育児等々、

たぼう げんじつ ま ふんとう ごほんぶつ すべ ごしょうらん  
多忙な現実にも負けない奮闘を、御本仏が全て御照覧であ

ほんしょう しめ き ひ い かわ つち  
る。本抄で示された「湿れる木より火を出だし、乾ける土

みず もう べこうじよう いの そうか たいよう  
より水を儲けんがごとく」との強盛な祈りで、創価の太陽

ゆうき きぼう ひろ  
よ、勇気と希望を広げゆけ！

だいま

付

もの

ひとり

教

訓

落

大魔のつきたる者どもは、一人をきょうくんしおとしつれ

引掛

おお

ひと

責

落

ば、それをひっかけにして多くの人をせめおとすなり。

うえのどのごへんじ

ぼんたいおんはか

こと

(311 上野殿御返事 (梵帝御計らいの事) 1867 ページ 4 行)

つうかい

## 「通解」

ま っ い

もの

ひとり

と

お

たいてん

魔に付け入られた者たちは、一人を説き落として退転させ、それをと

おお

ひと

せ

お

つかかりにして、多くの人を責め落とすのである。

いけだせんせい

おく

ししん

池田先生が贈る指針

こうふ にな た しゅたいしや

## ● 広布を担い立つ主体者たれ

せいねんもんか こうせんる ふ じんれつ まも ぬ たく ごせいくん

青年門下へ広宣流布の陣列を守り抜けと託された御聖訓

あくちしき かくらん ひとりひとり こうふ

である。悪知識に攪乱させてはならない。一人一人が広布

しゅたいしや いわお ごと なに ふんどう きつりつ

の主体者として、巖の如く何ものにも紛動されず屹立す

ごほんぶつ ちよつけつ せいぎ わごう がっかい たから

るのだ。御本仏に直結する正義の和合の学会である。宝

どうし はげ ささ いたいどうしん だいだんけつ つよ かしこ ほが

の同志を励まし支え、異体同心の大団結で強く賢く朗ら

かに！

くに ぶつぼう きへん 任 そろろ  
その国の仏法は貴辺にまかせたてまつり候ぞ。「仏種は縁  
より起る。この故に一乗を説く」なるべし。

358 高橋殿御返事（米穀御書） 1953 ページ14行

「通解」

くに ぶつぼう ふ まか ぶつしゆ えん お  
その国の仏法流布は、あなたにお任せする。「仏種は縁によつて起  
る。その故に一乗（法華経）を説く」のである。

いけだせんせい おく ししん  
池田先生が贈る指針

ちいき しんらい ゆうじょう はな  
●地域に信頼と友情の花を

ごほんぶつ

ちいき こうふ たく

われ

しんろう

御本仏から、わが地域の広布を託された我らである。辛勞

っ

じゆ われ か

こくど

は尽きない。しかし地涌の我らに変えられぬ国土はないの

にんげん

きずな

うす

しゃかい

こころ

せいじつ

だ。人間の絆が薄らぐ社会だからこそ、心をつなぐ誠実

こうどう

ひか

まごころ

たいわ

さち

ぶつえん

う

みな

な行動が光る。真心の対話から幸の仏縁が生まれる。皆、

しゆくえん

けんぞく

しんらい

れんたい

ひろ

きぼう

宿縁の眷属なりと信頼の連帯を広げよう！ここに希望と

そせい

あんぜんちたい

蘇生の安全地帯があるからだ。

(12)

たにん

他人なれども、

語

かたらいぬれば命にも替わるぞかし。

いのち

か

つうかい

「通解」

たにん

こころ

かた

あ

他人であつても、

心から語り合えば、

かけがえのない

いのち

か

命にも替わり

うるのである。

いけだせんせい

おく

ししん

池田先生が贈る指針

こころ

にんげん

きずな

●心つながる“人間の絆”を

(196 呵責謗法滅罪抄 1538 ページ 15 行)

かしかくほうぼうめつざいしよう

くなん たたか もんか ごしどう みぢか ひと こ  
苦難と戦う門下への御指導である。身近な人を、わが子の

いつく

おお

ほうよう

おし

まごころ

ごとく慈しみ、大きく包容するよう教えておられる。真心

せいじつ

ひと

たいせつ

じぶん

まも

らんせい

と誠実で人を大切にすれば、自分も守られる。乱世ゆえに、

あたた

こころづか

きぼう

こえか

ま のぞ

りっしょう

温かな心遣い、希望の声掛けが待ち望まれている。立正

あんこく

たいわ

もつと

ふか

せいめい

ぜんせい

むす

あ

ゆうじょう

安国の対話は、最も深い生命の善性を結び合う。友情と

しんらい

とうと

きずな

われ

しゃかい

信頼の尊き絆を我らの社会に！

(13)

かこ じぶそんりよう

ぞんしろう

なんみようほうれんげきよう

とな

過去の慈父尊靈は、存生に南無妙法蓮華經と唱えしかば、

そくしんじようぶつ ひと

いしへん

たま な

こうよう し

即身成仏の人なり。石變じて玉と成るがごとし。孝養の至

ごく もう そうろう

極と申し候なり。

うつぶさのにようぼうごへんじ

(389 内房女房御返事 2033 ページ14行)

つうかい

「通解」

な とうさま

ぞんめいちゆう

なんみようほうれんげきよう

とな

亡くなつたお父様は、存命中に南無妙法蓮華經と唱えたのですか

そくしんじようぶつ ひと

いし へん

たま

ら、即身成仏の人なのです。それはちようど、石が變じて玉とな

さいこう おやこうこう

るようなものです。これこそ、最高の親孝行というべきです。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

そくしんじようぶつ しようだいぎよう しん えこう

### ●即身成仏の唱題行こそ真の回向

みようほう くりき えいえん せいぜん だいもく とな こじん

妙法の功力は永遠である。生前、題目を唱えた故人が

そくしんじようぶつ きようがい ぜったい やくそく ついぜん

即身成仏の境涯にあることは、絶対に約束だ。追善の

しようだい こうみよう しんじん かぞく げんぜん とど

唱題の光明は、信心していない家族にも厳然と届く。

みようほう むす われ じようらくがじよう きどう せい かんき し

妙法で結ばれた我らは常楽我浄の軌道を「生も歓喜、死

かんき ゆうゆう すす さち ぶつえん ひろ こころ

も歓喜」と悠々と進みゆけるのだ。幸の仏縁を広げ、「心

たから っ さいじよう こうよう

の財」を積み、最上の孝養をすがすがしく！

ほけきよう

と

ひと

にゆうわにんにくえ

もう

かなら

ころも

法華經を説く人は、「柔和忍辱衣」と申して必ず衣あるべ

し。

つうかい

## 「通解」

ほけきよう

と

ひと

ほけきようほっしほん

にゆうわにんにく

ころも

法華經を説く人は、(法華經法師品にある)「柔和忍辱の衣」という

ころも き

衣を着るべきである。

いけだせんせい

おく

ししん

池田先生が贈る指針

おんころもならびにひとえごしよ  
(131 御衣並単衣御書 1310 ページ 9 行)

じょうぶ　こころ　ふくつ　げんろん

## ●「丈夫の心」で不屈の言論を

ほけきよう　と　かなら　はんぱつ　しょう　ゆえ　にゅうわにんにく

法華経を説けば、必ず反発が生ずる。故に、柔和忍辱と

さいごく　にんげんせい　ころも　き　たたか　しんねん　つよ

いう最極の人間性の衣を着て戦うのだ。信念が強いから

た　しの　きようがい　ふか　じゅうなん　つつ　とも　こころ

耐え忍べる。境涯が深いから柔軟に包める。友の心の

おうてい　うご　せいぎ　じあい　げんろん　ちから　にんなんぐつう

奥底を動かすのは、正義と慈愛の言論の力だ。忍難弘通の

だいとうそう　つ　ほんもん　だんしぶ　ふくつ　ゆうき　にんたいづよ　かた

大闘争を継ぐ本門の男子部よ、不屈の勇気で忍耐強く語り

ぬ　じだい　か　じょうぶ　こころ　だいいんたい

抜け！時代を変える「丈夫の心」の大連帯を！

とてもかくても法華經を強いて説き聞かすべし。信ぜん人

ほとけ

成

ぼう

もの

どつく

えん

ほとけ

は仏になるべし。謗ぜん者は毒鼓の縁となつて仏になる

べきなり。いかにとしても、仏の種は法華經より外になき

なり。

つうかい

「通解」

(048 法華初心成仏抄 697 ページ 14 行)

ほつけしよしんじょうぶつしょう

ほけきよう

し

と

き

しん

ひと

ともかくにも法華經を強いて説き聞かせるべきである。信じる人は

ほとけ

そし

もの

どつく

えん

ほとけ

仏になる。謗る者は毒鼓の縁となつて仏になるのである。どのよ

うにしても、 仏の種は法華経よりほかにないのである。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

ゆうじよう かいたく ぶつえん かくだい

### ●「友情の開拓」「仏縁の拡大」を

ばんにん みようほう ぶつしゆ ごほんぶつ こころ

万人に妙法の仏種を―これが御本仏のお心である。私

とも こうふく いの たいわ ほとけ たね ま

たちが友の幸福を祈り、対話することは、仏の種を蒔くこ

すべ とうと ぶつえん ゆうじよう かいたく ぶつしよう

とだ。全てが尊い仏縁となる。友情の開拓こそ、仏性を

くんぱつ こうふ じきどう はんぱつ むりかい

薫発しゆく広布の直道なのだ。反発や無理解があつても

せいい どうり たね き かなら め だ はなさ とき く

誠意と道理の種は消えない。必ず芽を出し、花咲く時が来

る。

声<sup>こえ</sup>を惜<sup>お</sup>しま<sup>かた</sup>ず語<sup>き</sup>り切<sup>き</sup>ろう！

ひ 薪 くわ とき 盛 おおかせふ ぐら

火にたきぎを加うる時はさかんなり。大風吹けば求羅は

ばいぞう まつ まんねん 齡 たも ゆえ えだ 曲

倍增するなり。松は万年のよわいを持つ故に枝をまげらる。

ほけきよう ぎようじや ひ ぐら たきぎ かぜ だいなん

法華經の行者は火と求羅とのごとし。薪と風とは大難の

ごとし。

しじようきんごどのごへんじ しきようなんじ こと

(199 四条金吾殿御返事 (此經難持の事) 1545 ページ1行)

つうかい

# 「通解」

ひ たきぎ くわ とき ひ さか も おおかせ ふ ぐら

火に薪を加える時には火は盛んに燃える。大風が吹けば求羅(

ぶってん で そうぞうじよう い もの ちい み かぜ え すべ

仏典に出てくる想像上の生き物。小さな身だが、風を得ると全て

こ

おお

ばいぞう

まつ

まんねん

をのみ込むほど大きくなる）は倍增するのである。松は万年の

じゅみよう も

えだ ま

ほけきよう

ぎようじゃ

ひ ぐら

寿命を持つゆえに枝を曲げられる。法華經の行者は火と求羅のよ

たきぎ かぜ だいなん

うなものである。薪と風は大難のようなものである。

いけだせんせい

おく

ししん

## 池田先生が贈る指針

くなん

じしん

つよ

おお

## ●苦難が自身を強く大きく

だいなんあめ

よわね

も

しじようきんご

ほうよう

「大難雨のごとく」と弱音を漏らした四条金吾を包容され

はげ

くなん

ひる

みようほう

つらぬ

とお

いな

ての励ましである。苦難に怯まず妙法を貫き通せるか否

しんじん

しゅうねん

しやうぶ

がっかい

そうそういらい

なん

か

か。信心は執念の勝負なのだ。学会は草創以来、難を勝ち

こ　　みな　つよ　あか　　おお　　きようがい　ひら　　はってん

超えるたびに、皆が強く明るく大きく境涯を開き、発展し

こうふ　　じんせい　　しょうま　　きそ　　かなら　　か

てきた。広布も人生も、障魔が競うのは、必ず勝てるとい

ずいそう

つよき

う瑞相だ。いよいよ強気でいけ！

(17)

ほけきよう

たも

たてまつ

ほか

ゆうらく

げんぜあんのん

ごしよう

法華經を持ち奉るより外に遊樂はなし。

「現世安穩、後生

ぜんしよ

善処」とは、これなり。

しじようきんごどのごへんじ

しゆじようじよゆうらくごしよ

(203 四条金吾殿御返事 (衆生所遊樂御書)

1554 ページ 9 行)

つうかい

「通解」

ほけきよう

じゆじ

いがい

ゆうらく

ほけきようやくそうゆほん

げんぜ

法華經を受持する以外に遊樂はない。(法華經藥草喩品にある)「現世

あんのん

らいせ

よところ

う

は安穩であり、来世には善い所に生まれる」とは、このことなので

ある。

いけだせんせい おく ししん  
**池田先生が贈る指針**

じ たとも じゅうじつ かんき まい  
**●自他共に充実と歡喜の舞を**

みようほう しんじゆ ひと だれ いちねんさんぜん とうたい せいめい かがや  
妙法を信受した人は、誰もが一念三千の当体の生命を輝

ほとけ ちから じざい はつき しゆくめい  
かせていける。仏の力を自在に發揮し、いかなる宿命も

かなら てんかん さんぜ ゆ あんのんふくうん きようがい  
必ず轉換できる。三世に揺るがぬ安穩福運の境涯を、

じ たとも か ひら しゆじようしよゆうらく じんせい しゃかい  
自他共に勝ち開ける。この衆生所遊樂の人生と社会を

しゃばせかい きず ひろ われ りっしやうあんこく たいわ  
娑婆世界に築き広げるのが、我らの立正安国の對話であ

しん じゅうじつ だいかんき まい  
る。ここにこそ真の充実と大歡喜の舞があるのだ。

われ ぐぼく ぼんぷ きょうしゅしやくそん くだく 等 か

我ら具縛の凡夫、たちまちに教主釈尊と功德ひとし。彼の

くだく ぜんたい受 取 ゆえ きょう い わ ひと

功德を全体うけとる故なり。経に云わく「我がごとく等し

こと とううんぬん

くして異なることなし」等云々。

にちみょうしようにんごしよ

(240 日 妙聖人御書 1681 ページ 6 行)

つうかい

# 「通解」

わたし ぼんのう しば ぼんぷ きょうしゅしやくそん ひと

私たちは煩惱に縛られた凡夫が、たちまちに教主釈尊と等しい

くだく そな しやくそん くだく すべ う と

功德を具えるのである。それは釈尊の功德を全て受け取るからであ

ほけきよう いっさい しゅじよう じぶん おな ほとけ こと

る。法華経には「(一切の衆生を) 自分と同じ仏にして、異なる

ことがないようにしたい」とある。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

によがとうむい ゆうきそくじひ

### ●「如我等無異」の勇氣即慈悲を

すべ ひと ほとけ おな こうふくきようがい

だいせいがん つらぬ

全ての人を仏と同じ幸福境涯に！——この大誓願を貫く

そうか してい しんりき ぎようりき

ひと こと

創価の師弟の信力・行力にこそ、「等しくして異なること

ぶつりき ほうりき こんこん ゆげん

にちれんだいしようにん

なし」の仏力・法力が滾々と湧現するのだ。日蓮大聖人は

ししおう こ ししおう

おお びようどうだいえ

「獅子王の子は獅子王となる」とも仰せである。平等大慧

みようほう ゆうきそくじひ

はつき じたとく

の妙法の勇氣即慈悲をいよいよ發揮し、自他共に功德を

う  
受けゆく幸の仏縁を結び広げよう！  
さち  
ぶつえん  
むす  
ひろ

(19)

ほけきよう

きよう

たも

によにん

いっさい

によにん

過

この法華経ばかりに、この経を持つ女人は一切の女人にす

いっさい

なんし

超

そうろう

ぎたるのみならず、一切の男子にこえたりとみえて候。

しじようきんごどののにようぼうごへんじ

(198 四 条 金 吾 殿 女 房 御 返 事 1542 ページ 13 行)

つうかい

「通解」

ほけきよう

きよう

じゆじ

じよせい

いっさい

じよせい

この法華経のみには、この経を受持する女性は、一切の女性より

いっさい

だんせい

こ

と

すぐれているだけでなく、一切の男性を超えている、と説かれていま

す。

いけだせんせい おく ししん  
**池田先生が贈る指針**

かよう ほうゆう さちかお

## ●華陽の宝友に幸薰れ

すべ じよせい こうふく ひとり そんげん かがや

全ての女性が幸福で、一人ももれなく尊厳に輝け！これ

ごほんぶつ こころ そうか してい せいがん みようほう

が御本仏のお心であり、創価の師弟の誓願である。妙法

い せいしゆん ふこう かなら じぶん か ひか

と生きゆく青春に不幸はない。必ず自分らしく勝ち光り、

わらく ふくとく きようがい ひら かようしまい だいいち

和楽を福德の境涯を開けるのだ。華陽姉妹こそ、第一の

きぼう つばさ ほか おうばいとうり れんたい ひろ せいめい

希望の翼である。朗らかに桜梅桃李の連帯を広げ、生命の

だいかんき ひやく へいわ あす

大歡喜の飛躍を平和の明日へ！

によらい

さんがい

しゅじよう

しゅじようじゅりようほん

まなこあ

「如来」とは、三界の衆生なり。この衆生寿量品の眼開

じっかいほんぬ

じつ

ちけん

けてみれば、十界本有と実のごとく知見せり。

おんぎくでんじようげ

(095 御義口伝上下 1050 ページ 9 行)

つうかい

## 「通解」

きようもん

と

によらい

さんがい

しゅじよう

(経文に説かれている)「如来」とは、三界の衆生のことである。

じゅりようほん

まなこ

あ

さんがい

しゅじよう

み

じっかい

寿量品の眼を開けて、この三界の衆生を見れば、そのまま十界

ほんぬ

とうたい

ちけん

本有の当体である、とありのままに知見できるのである。

いけだせんせい おく ししん  
**池田先生が贈る指針**

たようせい そんなよう あ しゃかい

● **多様性を尊重し合う社会を**

すべ ひと ほんぬ ほとけ せいめい そな

じんしゆ みんなぞく

全ての人に、本有の仏の生命が具わっている。人種や民族、

せいべつ さい こ ひとりひとり おうばいとより

性別などあらゆる差異を超えて、一人一人が桜梅桃李の

こせい じたいけんしょう そんなざい だれ じぶん い

個性を自体顕照しゆく存在なのだ。誰もが自分らしく生

い かがや しゃかい びようどうせい たようせい さいだい そんなちよう

き生きと輝ける社会へ！平等性と多様性を最大に尊重

あ ちきゆうみんぞく きようわ じしん そっか そうか せかい

し合う“地球民族の共和”を、自身の足下から、創価の世界

しみん つく ひら

市民が創り開くのだ。

だいあく だいぜん きた

ずいそう

いちえんぶだい 打

乱

大悪は大善の来るべき瑞相なり。一閻浮提うちみだすなら

えんぶだいない こうりようる ふ えんぶだい うち ひろ る ふ

ば、「閻浮提内、広令流布（閻浮提の内に、広く流布せしむ）」

うたが そちら

は、よも疑い候わじ。

げんこうごしよ

（363 滅劫御書 1969 ページ 6 行）

つうかい

# 「通解」

だいあく だいぜん く ぜんちよう

いちえんぶだい ぜんせかい う みだ

大悪は大善が来る前兆である。一閻浮提（全世界）が打ち乱れる

えんぶだい うち ひろ る ふ

きようもんどお

なら、「閻浮提の内に広く流布せしめる」との経文通りになること

うたが

は、よもや疑いあるまい。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

ちきゅう つつ せいがん いの

### ●地球を包み誓願の祈り

ごほんぶつ いっさいしゅじょう ぶつしやう さいごく せいめい ゆげん

御本仏は、一切衆生が仏性という最極の生命を湧現する

みち ひら なん の こ しんじん

道を開いてくださった。どんな難も乗り越える信心である。

じっしやう そうかかぞく にんげんかくめい いっごく せかい

その実証こそ、創価家族の「人間革命」だ。一国も世界も、

だいあく だいぜん てん いちえんぶだいこうふ じゆ

大悪を大善へ転ずるのが、一閻浮提広布である。地涌の

わこうど れんたい ごだいしゅう ひろ せいがん いの ちきゅう つつ

若人の連帯は五大州に広がった。誓願の祈りで地球を包

じんるい しゆくめいてんかん ぜんしん

み、人類の「宿命転換」へ前進だ！

まつほう

ほつけ

ぎよう

もの

しよてん

しゅご

あ

末法において法華を行ずる者をば、諸天の守護これ有るべ

じよういほうこ

つね

ほう

ゆえ

ほう

し。「常為法故（常に法のための故に）」の「法」とは、

なんみようほうれんげきよう

南無妙法蓮華経これなり。

おんぎくでんじようげ

(095 御義口伝上下 1046 ページ 2 行)

つうかい

「通解」

まつほう

ほけきよう

ぎよう

もの

しよてんぜんじん

かなら

しゅご

末法において法華経を行ずる者を、諸天善神が必ず守護するの

ほけきようあんらくぎようほん

つね

ほう

ゆえ

ほう

である。(法華經安樂行品にある)「常に法のために故に」の「法」

なんみようほうれんげきよう

とは南無妙法蓮華経のことである。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

びようま う やぶ げうじよう いの

### ●病魔を打ち破る強盛な祈り

わるせ なか こうふ いど われ しよてんぜんじん ちゅうや しゅご

悪世の中で広布に挑む我らを諸天善神が昼夜に守護しな

ほけきよう ぜったい やくそく だいかくしん

いわけがない。法華經の絶対の約束である。この大確信で

しよてんま いまいちじゅう ごうじよう いの ぬ びようま しようま

“諸天舞え”と今一重、強盛に祈り抜くのだ。病魔も障魔

に き ししく だいもく せ ぬ かぞく どうし

も逃げ去る、師子吼の題目で責め抜くのだ。家族も同志も

ゆうじん みようほう だいくりき つつ こ けんこうちようじゅ ふくとく

友人も、妙法の大功力で包み込みながら、健康長寿・福德

あんのん しゅくめいてんかん だいじっししよう

安穩、そして、宿命転換の大実証を！

こころ

ひと

勝

うへ

しんみよう

支

心ざし人にすぐれておわする上、わずかの身命をささう

おんゆえ

てん

定

知

ち

たま

るもまた御故なり。天もさだめてしろしめし、地もしらせ給

いぬらん。

しじようきんごどのごへんじ

ちじんぐほう

こと

(205 四条金吾殿御返事 (智人弘法の事) 1562 ページ 16 行)

つうかい

「通解」

にちれん

たす

こころざし

ひと

(日蓮を助けようとする) 志 が人にすぐれておられるばかりか、

にちれん

しんみよう

さか

日蓮がわずかの身命を、ここまで支えることができたのも、あなた

しじようきんご

てん

かなら

し

(四条金吾)のおかげである。このことは、天も必ず知っておられ

るし、ち ぞん地もご存じであろう。

い け だ せ ん せ い    お く    し し ん

## 池田先生が贈る指針

そ う ね ん ぶ    き よ う    ち ょ う せ ん    い っ ぽ

## ●壮年部よ今日も挑戦の一步を

わ れ    そ う ね ん ぶ    お う ぐ ん ば し ら    み    よ う し よ    し ろ    さ さ

我ら壮年部は黄金柱である。み見えない要所で城を支える

は し ら    か っ さ い    も と    が っ か い    ど う し    け ん ぞ く    げ ん ぜ ん

柱のごとく、喝采など求めず、学会を同志を眷属を、厳然

ま も    め    ご ほ ん ぶ つ    こ こ ろ    す べ    こ し よ う ら ん

と守り抜くのだ。御本仏が“わが心ざし”を全て御照覧で

ら ん せ い    ゆ    し し お う    こ こ ろ

ある。乱世なればこそ、いよいよ揺るがぬ師子王の心で

ゆ う き    か く し ん    ひ ろ    て ん    し    ち    し    ほ ま    が い か

勇気と確信を広げゆこう！天も知り、地も知る誉れの凱歌

の人生だ。  
じんせい

今日も挑戦の  
きょう  
ちようせん  
いっぽ  
一步を！

(24)

ちようもん

とき

燃

思

遠

聴聞する時はもえたつばかりおもえどもとおざかりぬれ

捨

こころ

みず

もう

退

しん

ばすつる心あり。水のごとくと申すは、いつもたいせず信

ずるなり。

(314 上野殿御返事 (水火二信抄) 1871 ページ 17 行)

うえのどのごへんじ

すいかにしんしょう

つうかい

「通解」

ひ

しん

おし

き

とき

も

た

おも

(火のように信ずるとは) 教えを聴いた時は燃え立つばかりに思う

とき

た

しんじん

す

こころ

しょう

みず

が、時が経つにつれて、信心を捨てる心が生じることをいう。水

しん

つね

こうたい

しん

のように信ずるとは、常に後退することなく信ずることをいう。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

ふたい しんじん

### ●たゆまぬ「不退の信心」を

じぞく ちから せいねん はげ ごもん みち

持続こそ力なり。青年への励ましの御文だ。いかなる道も、

じみち どりよく つらぬ ひと か しょうり なが

地道な努力を貫いた人が勝つ。その勝利の流れをつくる

きゆうきよく みなもと ふたい しんじん かべ つ あ

究極の源が「不退の信心」である。壁に突き当たった

だいもく とな ふくつ ちようせん せいがん いの ほとばし

ら、題目を唱えて不屈の挑戦だ。「誓願」の祈りから迸

せいめい いきお ぜんしん ふくとく たいが

る生命の勢いで、たゆまず前進を！福德の大河となつて

みんしゅう だいち うるお

民衆の大地を潤すのだ。

(25)

ほけきようしゆぎよう

もの　じゆう

ところ

じようど

おも

法華經修行の者の住するところの処を浄土と思うべし。

なん　わずら

たしよ　もと

何ぞ煩わしく他処を求めんや。

しゆごこつかるん

(023 守護国家論 431 ページ 17 行)

つうかい

「通解」

ほけきよう　しゆぎよう

もの　す

ところ

じようど

おも

法華經を修行する者が住んでいる所を浄土と思うべきである。

ところ　じようど　もと

どうして、わずらわしく、ほかの所に浄土を求めることがあるうか。

いけだせんせい　おく　ししん

池田先生が贈る指針

あい きょうど じゃつこうど

## ●わが愛する郷土を寂光土に

しやばせかい じゃつこうど か

ほとけ だいがん

この娑婆世界を寂光土に変えることこそ、 仏の大願であ

くのう にんげん しやかい よ そ

ぶつぽう ほんぎ

る。苦悩の人間と社会に寄り添うことが仏法の本義であり、

りつしょうあんこく こんぼんせいしん

いま せかい じゆ どうし

が

立正安国の根本精神なのだ。今、世界の地涌の同志が「我

し どあんのん いの こうけん つづ

ちきゆう つつ みようほう

此土安穩」の祈りと貢献を続けている。地球を包む妙法の

おんじょう してん かなら こた

じゆう ところ

音声に、諸天も必ず応える。わが「住するところの処」

てんか せいひつ ひら

から「天下の静謐」を開きゆくのだ。

みようしようごんのう

もう

おう

あくおう

おんたいし

妙莊嚴王と申せし王は、悪王なりしかども、御太子、

じようぞう

じようげん

みちび

たま

ふ ぼ ふたりとも

ほけきよう

浄蔵・浄眼の導かせ給いしかば、父母二人共に法華経を

ごしんよう あ

ほとけ

成

たま

御信用有って、仏にならせ給いしぞかし。これもさにてや

そうろう

奇

おぼ

そうろう

候らん。あやしく覚え候。

(383 浄蔵浄眼御消息 2008 ページ17行)

じようぞうじようげんごしようそく

つうかい

## 「通解」

みようしようごんのう

おう

あくおう

たいし

じようぞう

じようげん

妙莊嚴王という王は悪王であつたが、その太子の浄蔵・浄眼

ふたり

おう

ぶつどう

みちび

りようしん

とも

ほけきよう

しん

の二人が王を仏道に導かれたので、両親は共に法華経を信じ、つ

じょうぶつ

がた まつのどのふさい

おな

いには成仏されたのです。あなた方（松野殿夫妻）も、これと同じ

ふしぎ おも

であろう。不思議に思っています。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

いつかわらく あか こうしんきよく

## ●一家和樂の明るい行進曲を

いつかわらく しんじん ほけきようじきでん ししん

一家和樂の信心とは、法華経直伝の指針である。千差万別

かてい みようほう くどく そうごん

かなら えいえん

の家庭が、それぞれ妙法の功德に莊嚴され、必ず永遠の

さち きどう すす みな ふか しゆくえん むす かぞく

幸の軌道を進みゆける。皆、深き宿縁で結ばれた家族だ。

しんこう じげん あらそ なに だいもく ようこう

信仰の次元で争うことはない。何があっても題目の陽光

あか

おお

て

で明るく大らかに照らすのだ。

や

きぼう

こうしんきよく

わが家から希望の行進曲

ちいき

しゃかい

ひび

を、地域へ社会へ響かせよう！

(27)

いま にちれんとう たぐ なんみようほうれんげきよう とな たてまつ もの ふげん

今、日蓮等の類い、南無妙法蓮華經と唱え奉る者は、普賢

ぼさつ しゅご

菩薩の守護なり

(095 御義口伝上下 1084 ページ 16 行)

つうかい

「通解」

いま にちれん でし

なんみようほうれんげきよう とな もの

今、日蓮とその弟子のように、南無妙法蓮華經と唱える者は、

ふげんぼさつ しゅご う

普賢菩薩の守護を受けることができるのである。

いけだせんせい おく ししん

池田先生が贈る指針

ふげん こえ みらい は  
●普賢の声で未来を晴らせ

あまね かしこ ちせい せかいこうせんる ふ すいしんりよく

「普く賢い」知性こそ世界広宣流布の推進力である。

こんめい よ とうと そうか けんじゃ ぶつぼうそくしやかい れんたい きず

混迷の世に、尊き創価の賢者は仏法即社会の連帯を築き、

あんしん きぼう ひろ せんとう はし だんじよがくせいぶ

安心と希望を広げている。先頭を走るのが男女学生部だ。

しれん なか まな きた か ちそうぞう えいち しんじだい ひら

試練の中で学び鍛えゆく価値創造の英知は、新時代を開く

ひかり わか ふげん こえ かいかつ ゆうじよう ひろ ちいき

光となる。若き普賢の声で快活に友情を広げ、地域と

ちきゆう みらい は たま

地球の未来を晴らしてくれ給え！

(28)

ごうごん

たとい強言なれども、人をたすくれば実語・軟語なるべし。

ひと

じつご

なんご

なんご

ひと

そん

もうご

ごうごん

たとい軟語なれども、人を損ずるは妄語・強言なり。

ぜんむいさんぞうしょう

(097 善無畏三蔵抄 1194 ページ 8 行)

つうかい

## 「通解」

つよ

ことば

ひと

たす

しんじつ

ことば

やわ

たとえ強い言葉であつても、人を助ければ真実の言葉、柔らかい

ことば

やわ

ことば

ひと

あやま

いつわ

言葉である。たとえ柔らかい言葉であつても、人を誤らせれば偽

ことば

つよ

ことば

りの言葉であり、強い言葉である。

いけだせんせい おく ししん  
**池田先生が贈る指針**

せいぎ ししく じだいそうぞう ちから

**●正義の師子吼が時代創造の力**

ふか じひ はつ ことば こころ う ふか ひび

深い慈悲から発する言葉には、心を打つ深い響きがある。

よこしま きよぎ げんせつ と つくろ みやぶ

邪な虚偽の言説は、いかに取り繕っても、いずれ見破ら

ひとびと こうふく あんのん いの せいじつ かた あ たいわ

れる。人々の幸福と安穩を祈り、誠実に語り合う対話が、

しん みんな しゆしゆぎ せいじゆく せいめいそんげん てつり りつしょう

真の民主主義の成熟をもたらす。生命尊嚴の哲理、立正

あんこく しんねん もと せいぎ ししく じだいそうぞう ちから

安国の信念に基づいた正義の師子吼こそ、時代創造の力

むね は しんじつ かた ぬ

だ。胸を張って真実を語り抜け！

(29)

いん ちゆうおう

しちじゅうまんき

どうたいいしん

戦

殷の紂王は、七十万騎なれども、同体異心なればいくさに

負

しゅう

ぶおう

はつぴやくにん

いたいどうしん

勝

まけぬ。周の武王は、八百人なれども、異体同心なればか

ちぬ。

(398 異体同心事 2054 ページ 14 行)

つうかい

「通解」

いん ちゆうおう

まんき

どうたいいしん

たたか

ま

殷の紂王は、70万騎であつたが同体異心であつたので戦いに負

しゅう

ぶおう

にん

いたいどうしん

けてしまった。周の武王は、わずか800人であつたが、異体同心であ

か

つたので勝つたのである。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

ひとりひとりのの ぜんえん

### ●一人一人が伸び伸びと善縁を

そうか だんけつ どうたい いたい どうしん

創価の団結は「同体」ではなくして、「異体」の「同心」ゆ

つよ ひとりひとり たさい も あじ い こうふ だいがん

えに強い。一人一人が多彩な持ち味を生かし、広布の大願

こころひと せいじつ ぜんえん むす かさ しょうり ちから

へ心一つに、誠実な善縁を結ぶ。その重なりが、勝利の力

う けわ さか じ た ひ し こころ はげ あ

を生む。険しい坂も、「自他・彼此の心なく」励まし合つ

こ ゆ われ ひろ いたいどうしん れんたい

て、超え征こう！我らが広げる「異体同心」の連帯こそ、

じんるいきょうせい きぼう

人類共生の希望のモデルなのだ。

(30)

みず 澄

つき 映

かぜ 吹

き 揺

みこころ

水すめば月うつる、風ふけば木ゆるぐごとく、みなのお心は

みず

しん

弱

濁

しんじん

潔

水のごとし、信のよわきはにごるがごとし、信心のいさぎよ

澄

きはすめるがごとし。

(413 日 巖尼御前御返事 2135 ページ 9 行)

にちごんあまごぜんごへんじ

つうかい

「通解」

みず す

つき

うつ

かぜ

ふ

き

ゆ

ひと

水が澄めば月が映り、風が吹けば木が揺らぐようなものであり、人

こころ

みず

しんじん

よわ

みず

にご

の心は水のようなものであり、信心が弱いのは水が濁っているよ

しんじん

いさが

みず

す

うなものであり、信心が潔いのは水が澄んでいるようなものである。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

しんじん す き みず

### ●信心は澄み切った水のごとく

ねが た だいしようにん ほうこく けなげ もんか ごへんじ

願いを立てて大聖人にご報告した健気な門下への御返事

ねが かな じしん しんじん き

である。願いが叶うかどうかは、あなた自身の信心で決ま

はげ みようほう くりき お はか

ると励まされている。妙法の功力は推し量れない。その

ちから むげん ひ だ いさぎよ しんじん こうふ

力を無限に引き出せるのが、潔い信心なのだ。「広布の

せいがん いちねん す き みず

ために」との誓願の一念で、澄み切った水のごとく祈り抜

しょうり じっしょう う た

こう！勝利の実証を打ち立てるまで。

(31)

「過去の因を知らんと欲せば、その現在の果を見よ。未来の  
果を知らんと欲せば、その現在の因を見よ」

(005 開目抄上下 112 ページ 14 行)

「通解」

過去の因を知りたいと思うなら、その現在の果を見なさい。未来の果  
を知りたいと思うなら、その現在の因を見なさい。

池田先生が贈る指針

みらい　しょうり　いん　いま  
●未来の勝利の因を今こそ

みらいぶ　とも　いっしょ　はい　いま　がまんづよ　がんば  
わが未来部の友と一緒に拝したい。今、我慢強く頑張るこ

みな　じんせい　しゃかい　しょうり　いん  
とが、皆さんの人生にとつても、社会にとつても勝利の因

かしこ　せいかつ　すいみん　じゅうぶん　けんこうだいいち  
です。賢い生活のリズムで、睡眠を十分に、健康第一で！

かぞく　えがお　わす　ほか　ぜんしん　たから　ひとりひとり  
ご家族に笑顔を忘れず、朗らかに前進を！宝の一人一人

だいもく　おく  
に題目を送ります。

にちれん

魂

墨

染

流

そうろう

しん

日蓮がたましいをすみにそめながしてかきて候ぞ、信じ

たま

ほとけ

みこころ

ほけきよう

にちれん

させ給え。仏の御意は法華経なり、日蓮がたましいは

なんみようほうれんげきよう

過

南無妙法蓮華経にすぎたるはなし。

きようおうどのごへんじ

(225 経王殿御返事 1633 ページ 6 行)

つうかい

「通解」

ごほんぞん

にちれん

たましい

そ

か

したた

(この御本尊は) 日蓮の 魂 を染めながして書き 認めたものである

しん

しゃくそん

ほんい

ほけきよう

にちれん

たましい

から、信じていきなさい。釈尊の本意は法華経であり、日蓮の 魂

なんみようほうれんげきよういがい

は南無妙法蓮華経以外のなにものでもない。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

こう ふ いの ふかのう かのう

### ● 広布の祈りが不可能を可能に

ごほんぞん ごほんぶつ せいめい

ごほんぞん しん こう

御本尊は御本仏の生命そのものである。御本尊を信じ、広

ふ いの つらぬ

われ せいめい こんぽんそんぎよう ほうとう

布の祈りを貫くとき、我らの生命も「根本尊敬」たる宝塔

かがや ししおう ゆうき むげん ちえ ゆげん

と輝く。師子王の勇氣と無限の智慧を湧現させ、いかなる

しゆくめい てんかん みようほう だいかくしん いっさい しょうてん

宿命をも転換できるのだ。妙法への大確信は一切を諸天

ぜんじん はたら か ちから じんるいしやかい さいごく せいめい

善神の働きに変えゆく力がある。人類社会へ最極の生命

そんげん てつり ひかり だいしようにん とも

尊嚴の哲理の光を、大聖人と共に！

(33)

ほけきよう

たね

ほとけ

植手

しゅじよう

た

法華経は種のごとく、仏はうえてのごとく、衆生は田のご

とくなり。

そやどのごへんじ

じようぶつようじんしよう

165 曾谷殿御返事（成仏用心抄）

1435 ページ13行

つうかい

「通解」

たと

ほけきよう

たね

ほとけ

うて

（譬えていえば）法華経は種のようなものであり、仏は植え手のよ

しゅじよう

た

うなものであり、衆生は田のようなものである。

いけだせんせい

おく

ししん

池田先生が贈る指針

●「仏の種」植えゆく励まし

しんじん

よろこ

かた

とも

せいめい

ほとけ

たね

かなら

う

信心の喜びを語れば、友の生命に「仏の種」が必ず植え

あいて

はんのう

いつきいちゆう

ひつよう

ぶつしゆ

とき

られる。相手の反応に一喜一憂する必要はない。仏種は時

こ

こうふく

はな

さ

わらく

その

ひろ

われ

を超え、幸福の花を咲かせ、和楽の園を広げるからだ。我

みようほう

たね

ま

ひと

さいごく

ぶつじ

むね

は

ひとり

らは妙法の種を蒔く人だ。最極の仏事に胸を張り、一人

ひとり

えん

たいせつ

はぐく

そうろう

一人との縁を大切に育もう！「いまだこりず候」と、

ごほんぶつちよつけつ

ぶつえんかくだい

かしこ

ほが

御本仏直結の仏縁拡大を賢く、朗らかに！

りゆうによ　もう　によにん　ほけきよう　ほとけ　な　そうら　まつだい

竜女と申す女人は、法華経にて仏に成りて候えば、末代

きよう　たも　によにん　守　たも　由

にこの経を持ちまいらせん女人をまぼらせ給うべきよし

ちか　たま　おん　縁　そうろう　たつと　たつと

誓わせ給いし。その御ゆかりにて候か。貴し、貴し。

まつどのののげあまごぜんごへんじ

(379 松野殿後家尼御前御返事 2004 ページ5行)

つうかい

# 「通解」

りゆうによ　によにん　ほけきよう　ほとけ　な　まつだい

竜女という女人は、法華経で仏に成られたので、末代にこの

ほけきよう　たも　によにん　まも　ちか　た

法華経を持つ女人を守ると誓いを立てられました。あなたは、その

ひと　とうと

ゆかりの人でしょうか。まことに貴いことです。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

こうふ じよせい せかい こうみよう

### ●広布の女性は「世界の光明」

りゆうによ しゅじょう あかご じめん こころ おお かんき

竜女は衆生を赤子のごとく慈念し、心を大いに歓喜せ

こうふく せかい ひろ じしやくこうふ はげ じよせいぶ

しめ、幸福の世界を広げる。慈折広布に励む女性部こそ、

しん こうけい じつぼう ぶってん まも

その真の後継である。十方の仏天が守らぬわけがない。華

よう おとめ しら せんとう みな さいごく せいめい ほうしゅ か

陽の乙女、ヤング白ゆりを先頭に、皆が最極の生命の宝珠

しゃかい て によにんじようぶつ ばんにんじようぶつ みち ばんだい

で社会を照らすのだ。女人成仏・万人成仏の道を“万代

ふ あ きぼう だいれんたい ばんざい

へ踏み開ける”希望の大連帯、万歳！

(35)

わざわいは口より出でて身をやぶる。さいわいは心よりい  
でて我をかざる。

(390 十字御書 2037 ページ 5 行)

「通解」

災いは、口から出て身を破る。幸いは、心から出て自信を飾る。

池田先生が贈る指針

●幸福を創る源泉は「心」

こうふく

げんせん

こころ

そうめい

こころ

きぼう

つく

れんたい

幸福の源泉は「心」だ。聡明な心は希望を創り、連帯を

ひろ

つよ

こころ

こんなん

のこ

こころ

みが

広げる。強き心は困難を乗り越える。この「心」を磨く

ひび

だいもく

ぎようがく

じっせん

しんじん

のが、日々の題目である。行学の実践である。信心という

たいよう

こころ

かてい

ちいき

しゃかい

あかあか

て

「太陽の心」で、家庭も地域も社会も、明々と照らしてい

せいじつ

ことば

はげ

ことば

ゆうき

ことば

たいせつ

こう！誠実な言葉、励ましの言葉、勇気の言葉を大切に、

ま

ちから

みなぎ

負けない力を漲らせながら。

ひと いのち さんかいこうし 免 さだ そうち

人の命は山海空市まぬかれがたきことと定めて候えども、

じょうぎよう

よ てん

きようもん

てんだい

また「定業もまた能く転ず」の経文もあり。また天台の

おんしやく

じょうぎよう

延

しやく

御釈にも、定業をのぶる釈もあり。

しじょうきんごどのごへんじ ちじんぐほう こと

(205 四条金吾殿御返事 (智人弘法の事) 1563 ページ1行)

つうかい

# 「通解」

ひと いのち やま うみ そら まち

お

まぬか

人の命は、山や海や空や町のどこにいても、いずれ終わるのは免

さだ

じょうぎよう

しょうほう

れがたいことであると定められているが、「定業であつても(正法

しゅぎよう

てん

きようもん

てんだい

しやく

の修行によつて)よく転じる」との経文もある。また、天台の釈

じょうごう の  
に、定業を延ばすことができるともある。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

だんこ びようま しりぞ

### ●断固と病魔を退けよ！

けんこうちようじゆ しんじん みようほう のつと

「健康長寿の信心」だ。妙法に則り、健やかな充実の

ひび そうめい かさ てきせつ けんしん ちりよう

日々を聡明に重ねていただきたい。適切な検診や治療も

たいせつ やまい たたか よわき

大切に！病との闘いに弱気になるときもあるう。しかし、

ごほんぶつ げんぜん じゆ とうし まも ほけきよう

御本仏が厳然と地涌の闘士を護つてくださる。法華経には、

さだ じゆみよう の だいくりき こうふ

定められた寿命さえも延ばせる大功力がある。広布の

しめい      じかく  
使命を自覚して、

だんこ      びょうま      たいさん  
断固と病魔を退散させるのだ。

(37)

おのおのわ

でし

名乗

ひとびと

ひとり

臆

思

各々我が弟子となのらん人々は、一人もおくしおもわるべ

からず。

つうかい

「通解」

にちれん

でし

なの

ひとびと

ひとり

おく

こころ

お

おのおの日蓮の弟子と名乗る人々は、一人も臆する心を起こして

はならない。

いけだせんせい

おく

ししん

池田先生が贈る指針

（107 種種御振舞御書 1227 ページ 5 行）  
しゅじゅおんふるまいごしよ

●「勇氣」こそ師弟の精髓

ゆうき

してい せいずい

ごほんぶつ

えいえん

だいせんげん

でし

なの

かぎ

御本仏の永遠の大宣言であられる。弟子を名乗る限りは、

だん

おく

しれん

れつぷう

ふ

あ

断じて臆してはならない。どんな試練の烈風が吹き荒れよ

ひる

むね

は

ゆうき

にちれんもんか

たましい

うとも、怯まず胸を張るのだ。「勇氣」こそ、日蓮門下の魂

だいしようにん

おのおのおも

き

たま

おお

なのである。大聖人は「各々思い切り給え」とも仰せであ

けつぜん

いちねん

さだ

してい

せいがんしょうり

みち

る。決然と一念を定め、師弟の誓願勝利の道を、まっしぐ

すす

らに進みゆこうではないか！

きこうじよう だいしんりき 出 ほつけしゅう しじょうきんご しじょうきんご

強盛の大信力をいだして、「法華宗の四条金吾、四条金吾」

かまくらじゅう じょうげばんにん ないしにほんこく いっさいしゅじよう くち 謳

と、鎌倉中の上下万人、乃至日本国の一切衆生の口にうた

たま

われ給え。

しじょうきんごどのごへんじ ぼんのうそくぼだい こと

(194 四条金吾殿御返事 (煩惱即菩提の事) 1522 ページ 13 行)

つうかい

「通解」

きこうじよう だいしんりき だ ほつけしゅう しじょうきんご しじょうきんご

強盛の大信力を出して、「法華宗の四条金吾、四条金吾」と、

かまくらじゅう じょうげばんにん にほんこく すべ ひと くち ほ

釜倉中の上下万人をはじめとして、日本国の全ての人の口に褒

めたたえられていきなさい。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

しゃかい しょうり じっしょう

### ●社会で勝利の実証を

しよくば ちいき しんらい

職場や地域で信頼されてこそ、真の「信心即生活」「仏法即

しゃかい しんじん こんぽん まごころ ちえ つ

社会」である。信心を根本に真心と智慧を尽くし、どこま

せいじつ ひと ふ ま てつ

でも誠実な「人の振る舞い」に徹していくことだ。激動の

しゃかい へんか じだい せいじよう だいしんりき

社会、変化の時代である。だからこそ「強盛の大信力」を

ふる お しめい ぶたい だん しょうり じっしょう う

奮い起こし、わが使命の舞台で、断じて勝利の実証を打ち

た た 謳 たま こうせんる ふ きぼう

立てよう！「うたわれ給え」——これが、広宣流布の希望の

げき  
劇だ。

(39)

世の人、よ ひと 疑いあらば、うたが 委細のことは弟子にこれを問え。いさい

(037 顕仏未来記 611ページ 16行)  
けんぶつみらいき

「通解」  
つうかい

世間の人よ、せけん ひと 私言葉に疑いがあるならば、わたし ことば 詳しいことは私の  
わたし 弟子に聞きなさい。  
うたが

池田先生が贈る指針  
いけだせんせい おく ししん

● 恩師の遺訓を時代精神に  
おんし いくん じだいせいしん

ごほんぶつ さ どころざい ただなか ぶつぽうせい かん いちえんぶだいこうふ  
御本仏は佐渡流罪の只中、「仏法西還・一閻浮提広布」

りっしょうあんこく でし たく ごゆいめい げんだい

「立正安国」を弟子に託された。この御遺命を現代におい

じつげん そうか してい おんし せかい

て実現してきたのが、創価の師弟である。恩師は世界の

みんしゅう せいぞん けんり おびや ましょう いど かくへいきはいぜつ

民衆の生存の権利を脅かす魔性に挑み、核兵器廃絶を

せいねん いくん せいめいそんげん しそう じだいせいしん

青年への遺訓とされた。生命尊厳の思想を時代精神とし、

へいわ だいいんたい ふくつ ちようせん かぎ

平和の大連帯で不屈の挑戦を限りなく！

(40)

ほり 堤

も

みずう

しんじん

まった

塹つつみ漏らざれば、水失することなし。信心のころ全

びようどうだい え ちすいかわ

ければ、平等大慧の智水乾くことなし。

あきもとごしよ

(170 秋元御書 1458 ページ 12 行)

つうかい

「通解」

ほり つつみ も

みず

しんじん こころ

堀の堤が漏れなければ、水がなくなることはない。信心の心が

けんご

ほとけ びようどうだい え ちえ みず かわ

堅固であれば、仏の平等大慧の智慧の水が乾くことはない。

いけだせんせい おく ししん

池田先生が贈る指針

● 仏の“智慧の泉”は無限なり

ほとけ ちえ いずみ むげん  
ほとけ ちえ こうだいむへん ごほんぞん きょうちみょうこう

仏の智慧は廣大無辺である。御本尊と境智冥合すれば、

せいめい いずみ っ ちすい わ だ

わが生命の泉からも尽きることなく智水を湧き出させて

なや なんもん ひる ひと ひと ぐたいてき

いける。どんな悩みや難問にも怯まず、一つ一つ具体的に

いの き こうふせいがん しんじん い づ かなら

祈り切るのだ。広布誓願の信心に行き詰まりはない。必ず

みち ひら えん ひとりひとり だいもく おく こうへい せいじつ

道は開ける。縁する一人一人に題目を送り、公平に、誠実

みょうほう だいくりき うるお

に妙法の大功力で潤していこう！

ぼんげん

さだ

せんち

あき

凡眼をもつて定むべきにあらず。浅智をもつて明らむべき

きようもん

まなこ

ぶつち

さき

にあらず。経文をもつて眼とし、仏智をもつて先とせん。

ほしなごろうたろうどのごへんじ

(402 星名五郎太郎殿御返事 2076 ページ 16 行)

つうかい

「通解」

ただ

ぶつぼう

なに

ぼんぷ

まなこ

さだ

(正しい仏法とは何か) 凡夫の眼によつて定められるものではない

あさ

ちえ

あき

きようもん

まなこ

い。浅い智慧によつて明らかにできるものではない。経文を眼と

ほとけ

ちえ

だいいち

し、仏の智慧を第一とすべきである。

いけだせんせい おく ししん  
**池田先生が贈る指針**

しんじん まなこ すべ み  
●「信心の眼」で全てを見つめよ

あくえん うずま じだい じゃち まど  
悪縁が渦巻く時代である。邪知に惑わされてはならない。

とうてつ しんじん まなこ しんぎ せいじゃ せんじん するど みきわ  
透徹した「信心の眼」で真偽、正邪、浅深を鋭く見極め

ひび せいがん だいもく いしんだいえ しん もつ え か  
るのだ。日々、誓願の題目で「以信代慧（信を以て慧に代

ぶつち ゆげん すべ こうふく へいわ かち そうぞう  
う）」の仏智を湧現し、全てを幸福へ、平和へと価値創造し

ごしよこんぼん ちゆうどう ち え とも こころ きぼう はげ  
ていこう。御書根本の中道の智慧で、友の心に希望の励

ちいき しゃかい ぜん れんたい  
ましを！地域・社会に善の連帯を！

じつぽうかい

ひとり

こころ

い

はちまんしせん

ほうもん

な

この十法界は一人の心より出でて、八万四千の法門と成る

ひとり

てほん

いつさいしゅじょうびようどう

なり。一人を手本として一切衆生平等なること、かくのご

とし。

さんぜしよぶつそうかんもんきようそうはいりゅう

(049 三世諸仏総勘文教相廃立(総勘文抄) 714ページ15行)

つうかい

「通解」

じつかい

ひとり

こころ

う

だ

はちまんよんせん

ほうもん

この十界は一人の心から生み出されて八万四千の法門となるの

ほうもん

ひとり

てほん

ひと

ひと

あ

である。この法門は、一人を手本として、いかなる人にも等しく当て

はまるのである。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

こうふ かいたく わこうど て

### ● 広布の開拓は若人の手で

ひとり せいめい いだい ひかり はな ぜんじんるい ほうがん

一人の生命が、いかに偉大な光を放つか。全人類を包含す

じっかいごぐ いちねんさんぜん ふへん ほうり かか にんげんかくめい

る十界互具・一念三千の普遍の法理を掲げ、人間革命の

じっしょう せかいじゅう しめ そうか してい こうふ

実証を世界中で示しているのが創価の師弟である。広布

ちへい ひら わか じゆ ねつ ちから せいじつ ひとり

の地平を開くのは若き地涌の熱と力だ。誠実に一人の

わこうど こころ ばんにん つう せいねん

若人の心をつかむことは、万人に通ずる。わが青年よ、

しんじだい ゆうかん かいたく たの

新時代の勇敢なる開拓を頼む！

にちれんとう たぐ なんみようほうれんげきよう とな たてまつ もの じゅうじゅじゅつ

日蓮等の類い、南無妙法蓮華經と唱え奉る者は、從地涌出

ぼさつ ほか もと

うんぬん

の菩薩なり。外に求むることなかれ云々。

おんぎくでんじょうげ

(095 御義口伝上下 1113 ページ 10 行)

つうかい

「通解」

いま にちれん でし なんみようほうれんげきよう とな もの ほつけ

今、日蓮とその弟子のように南無妙法蓮華經と唱える者は（法華

ゆじゅつぽん ち わ で ぼさつ われわれ じゅ

涌出品で）地より涌き出た菩薩である。我々をおいてほかに地涌の

ぼさつ もと

菩薩を求めてはならない。

いけだせんせい おく ししん  
**池田先生が贈る指針**

じゆ ぼさつ じかく むねは

**●地涌の菩薩の自覚で胸張れ**

ごほんぶつ ししく こおう じよくせ いま

ち わ

御本仏の師子吼に呼応し、濁世の今、地よりが涌きたる”

われ にちれん どうい なに おそ がっかい

我らである。「日蓮と同意」なるゆえに何も恐れない。学会

むね は ぜんみんしゅう こうふく へいわ じしやくこうふ

は胸を張り、全民衆の幸福と平和のため、慈折広布と

りっしょうあんこく まいしん じゆ せいめい じかく むへん

立正安国に邁進する。地涌の生命を自覚すれば、無辺の

ちから ゆげん せいがん ぶたい 踊

力が涌現する。さあ、誓願の舞台で「おどりてこそ」と、

しんじだい かいまく

新時代のドラマの開幕だ！

あぶつぼう

ほうとう

ほうとう

あぶつぼう

ほか

阿仏房さながら宝塔、宝塔さながら阿仏房、これより外の

さいかくむやく

才覚無益なり。

あぶつぼうごしよ

ほうとうごしよ

(263 阿仏房御書 (宝塔御書) 1733 ページ 2 行)

つうかい

「通解」

あぶつぼう

ほうとう

ほうとう

あぶつぼう

しん

阿仏房はそのまま宝塔であり、宝塔はそのまま阿仏房であり、こう信

いがい

さいのう

ちえ

なん

やく

た

じる以外の才能や知恵は、何の役にも立たないのである。

いけだせんせい

おく

ししん

池田先生が贈る指針

たほう　かがや　えいえん　ふめつ  
●多宝の輝きは永遠に不滅

たほうかい　ぜんこく　ほうじゆかい　とうきよう　きんぼうかい　かんさい　みな

多宝会（全国）、宝寿会（東京）、錦宝会（関西）の皆さま

そうか　あぶつぼう　せんにちあま　ふうせつ　た　こうふ

は、創価の阿仏房であり、千日尼である。風雪に耐え広布

いぬ　ふくとくむりよう　ほうとう

に生き抜いてきた、福德無量の宝塔にほかならない。この

とうと　ちちはは　とも　ふゆ　かなら　はる　きぼう　ひかり　ひろ

尊き父母と共に「冬は必ず春となる」と希望の光を広げ

いっしょうじようぶつ　えいえん　こうふく　きどう　じんるい

よう！「一生成仏」という永遠の幸福の軌道を、人類に

しめ　なに　ま　がっかいせいしん

示すのだ。何ものにも負けない学会精神で！

(45)

凡夫は 志 と申す文字を心えて 仏 になり 候なり。

(397 白米一俵御書 2053 ページ5行)

はくまいいつびようごしよ

「通解」

凡夫は「志」という文字を心得て 仏 になるのである。

池田先生が贈る指針

● 強き「志」が幸福境涯を開く

万人が成仏できる民衆仏法である。 凡夫がそのまま仏

ようてい

しんじん

つよ

まごころざし

まごころ

たいせつ

になれる要諦が、信心の強き「志」なのだ。「心こそ大切」

ほう

とも

りっしょうあんこく

みずか

である。法のため、友のため、立正安国のため、自らも

なや

たたか

いま

まごころ

っ

悩みと闘いながら、今でできることに真心を尽くす。そこに

ゆ

こうふくきようがい

ひら

どうし

とうと

まごころざし

ねぎら

揺るがぬ幸福境涯が開かれる。同志の尊き志を労い、

たた

あ

かんき

くどく

ま

讃え合い、歓喜も功德も増しゆこう！

いま にちれんとう たぐ なんみようほうれんげきよう とな たてまつ もの けじよう

今、日蓮等の類い、南無妙法蓮華經と唱え奉る者は、化城

そくほうしよ われ こじゆう せんごくこうや みな かいじようじやつこう ほうしよ

即宝処なり。我らが居住の山谷曠野、皆、皆常寂光の宝処

なり

おんぎくでんじようげ

(095 御義口伝上下 1024 ページ 3 行)

つうかい

「通解」

いま にちれん でし なんみようほうれんげきよう とな もの けじよう

今、日蓮とその弟子のように、南無妙法蓮華經と唱える者は、化城

そくほうしよ われわれ こじゆう やま たに こうや すべ

即宝処である。我々が居住するところの山や谷、広野など、全て

じようじやつこう ほうしよ

のところは常寂光の宝処なのである。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

いま ばしょ たから ぶたい

### ●今いる場所を「宝の舞台」に

いま ほとけ だいきようがい

「いつか」「どこか」ではない。「今」「ここで」仏の大境涯

ひら にちれんぶつぽう しんずい げんじつ かくとう

を開けるのが日蓮仏法の真髓だ。現実と格闘する「この

ばしょ じゃつこう ぶたい くなん いど いま とき

場所」が寂光の舞台である。苦難に挑む「今この時」が、

ひやく みようほう とな ひと ひと もくひよう

飛躍のチャンスとなる。妙法を唱え、一つ一つ目標に

ちようせん なか にんげんかくめい しょうりげき かざ けじようそく

挑戦する中で、人間革命の勝利劇を飾る。これが「化城即

ほうしよ じんせい

宝処」の人生なのだ。

(47)

いくさ

だいしようぐん

たましい

だいしようぐん

臆

つわもの

軍には大將軍を魂とす。

大將軍おくしぬれば、歩兵

おくびよう

臆病なり。

(242

乙御前御消息

1688

ページー14行)

おとごぜんごしようそく

つうかい

「通解」

いくさ

だいしようぐん

たましい

だいしようぐん

おく

つわもの

軍には大將軍を魂とする。

大將軍が臆したならば、

兵も

おくびよう

臆病になつています。

いけだせんせい

おく

ししん

池田先生が贈る指針

# ●リーダーの一念が勝利を開く

いちねん しょうり ひら

ほけきよう しょうぐんがく きゆうきよく

「法華經の將軍学」こそ、究極のリーダーシップである。

いっさい しょうり ようてい ちよう いちねん ゆうき

一切の勝利の要諦は、「長の一念」にある。リーダーの勇氣

でんぱ せいがん だいもく はどう お そっせんすいはん かいたく

は伝播する。誓願の題目が波動を起こす。率先垂範の開拓

いきお う ふに そうか だいしょうぐん

から勢いが生まれる。不二の創価の大將軍たちよ、健気

どうし さいだい たた ねぎら ひとりひとり わたし か

な同志を最大に讃え、労い、一人一人が「私は勝った！」

むね は めいしき たの

と胸を張れる名指揮を頼む。

(48)

いち 円

思 き

善

ふ し ぎ

悪

ただ一えんにおもい切れ。よからんは不思議、わるからんは

いちじよう

思

一定とおもえ。

つうかい

「通解」

おも き

よ

ふ し ぎ

わる

ただいちずに思い切りなさい。良いことがあるのは不思議であり、悪

とうぜん かんが

いことがあるのが当然と考えなさい。

いけだせんせい おく ししん

池田先生が贈る指針

(219 聖人御難事 1620 ページ 14 行)

しょうにんごなんじ

かくご しんじん ひとりた  
●“覚悟の信心”に一人立て

めつふめつ だいじひ げん ごほんぶつ もっと とうと ふか つよ

滅不滅の大慈悲を現ずる御本仏は、最も尊く深く強い

しんねん きよくち おし しんじん せいめい みようほう

信念の極致を教えられた。それが信心だ。わが生命は妙法

とうたい われ せいがん こうせんる ふ おも き おそ

の当体なり、我らの誓願は広宣流布なりと思い切れば、恐

なんきよく とつぱ むきゆう ちから ちえ わ

れるものはない。難局を突破できる無窮の力と智慧が湧

かなら か はら き だん か

いてくるのだ。「必ず勝つと腹を決めよ。そして断じて勝

おんし しめ しょうり しんずい

て！」とは、恩師が示した勝利の真髄である。

きへん にほんこくだいいち こうよう ひと ぼんてん たいしやく降 くだ

貴辺は日本国第一の孝養の人なり。梵天・帝釈おり下つて

そう はね しほう ちじん あし 戴 ふぼ 仰

左右の羽となり、四方の地神は足をいただいて父母とあお

たも

ぎ給うらん。

うえのどのごへんじ こうふこう こと

(329 上野殿御返事 (孝不孝の事) 1900 ページー1 行)

つうかい

「通解」

なんじようとときみつ

にほんこくだいいち こうよう ひと

ぼんてん

あなた (南条時光) は、日本国第一の孝養の人である。梵天・

たいしやく てん お さゆう はね しほう ちじん

帝釈は、天から降りくだつて左右の羽となり、四方の地神は、あな

あし ふぼ あお

たの足をいただいて父母と仰ぐことであらう。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

きぼう おおぞら は

### ●希望の天空へ羽ばたけ

わか なんじょうときみつ あつはら ほうなん くつ しんじん う

若き南条時光は熱原の法難にも屈しなかった。信心を受

っ こうふ だいがん つらぬ だいいち せいぎ

け継ぎ、広布の大願を貫くことは第一の正義であり、

おやこうこう ごほんぶつ せかいじゅう みらいぶ たた

親孝行だ。御本仏は、世界中の未来部を、どれほど讃えて

しれん とき しんけん いの まな きた

くださるであらうか。試練の時にも、真剣に祈り、学び鍛

そうかこうけい とも じんるい あお み きぼう

える創価後継の友が、人類の仰ぎ見る希望のリーダーとし

は わたし しん

て羽ばたくことを、私は信じてやまない。

(50)

じゃつこう

みやこ

みなく

ほんがく

すみか

寂光の都ならずば、いずくも皆苦なるべし。本覚の栖を

はな

なにごと

たの

離れて、何事か楽しみなるべき。

じみようほっけもんどうしょう

(030 持妙法華問答抄 519 ページ 2 行)

つうかい

「通解」

じゃつこう

みやこ

ぶつこくど

みな

くる

せかい

寂光の都（＝仏国土）でないならば、どこも皆、苦しみの世界で

ほとけ

さと

すみか

きょうち

はな

たの

ある。仏の覚りの住处（＝境地）を離れて、どんなことが楽しみと

なるだろうか。

いけだせんせい おく ししん  
**池田先生が贈る指針**

こうふく かくだい

**●幸福の拡大はブロックから**

くのう うずま しゃかい じゃつこう みやこ きず せいぎよう こうせんる ふ

苦悩の渦巻く社会に「寂光の都」を築く聖業が広宣流布

さいぜんせん にな とうと

だ。その最前線を担う尊きリーダーこそ、ブロック長で

しら ちょう ごほんぶつ もつと じみち もつと

あり、白ゆり長である。御本仏は最も地道にして最も

いだい じっせん すべ ごしやうらん ほんがく すみか きやうちゆう

偉大な実践を全て御照覧である。「本覚の栖」たる胸中

ぶっかい ゆげん じんせい い づ

の仏界を涌現する人生に、行き詰まりはない。わがブロッ

どうし こんじやうにんかい おも で ともども

クの同志と「今生人界の思い出」を共々に！

もくれんそんじや

ほけきよう

しん

だいぜん

わ

みほとけ

成

目連尊者が法華経を信じまいらせし大善は、我が身仏にな

ふぼ

ほとけ

たも

かみしちだい

しもしちだい

かみ

るのみならず、父母、仏になり給う。上七代・下七代、上

むりようしよう

しもむりようしよう

ふ

ぼとう

ぞんがい

ほとけ

たも

無量生・下無量生の父母等、存外に仏となり給う。

うらぼんごしよ

(387 孟蘭盆御書 2026 ページ 4 行)

つうかい

## 「通解」

もくれんそんじや

ほけきよう

しん

だいぜん

もくれんじしん

ほとけ

な

目連尊者が法華経を信じた大善によつて、目連自身が仏に成つた

ふぼ

ほとけ

な

かみしちだい

しもしちだい

だけでなく、その父母も仏に成つた。さらに、上七代、下七代、ま

かみ

しも

かずかぎ

せい

あいだ

じぶん

えん

ふぼ

すべて

おも

た上と下の数限りない生の間、自分に縁ある父母たち全てが、思

ほとけ な  
いもかけず、 仏と成った。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

みようほう さいじょうさいごく ついぜん

## ●妙法は最上最極の追善

みようほう りきゆう じくう こ だいもく たいこう たいせつ こじん

妙法の力用は、時空を超える。題目の大光は、大切な故人

とど く ぬ らく あた かなら じょうぶつ みちび せいぜん つ

に届いて苦を抜き樂を与え、必ず成仏へ導く。生前に尽

ほうおん は とも こうふく いの しゃかい

くせなかつた報恩も果たせる。友の幸福を祈り、社会の

あんのん こうけん ひび がつかいかつどう しょうじふ に

安穩に貢献する日々の学会活動は、生死不二なるゆえに、

さいじょうさいごく ついぜん せんぞだいだい ふくとく つつ

そのまま最上最極の追善となり、先祖代々を福德で包む。

未来の子孫末代まで照らしゆけるのだ。  
みらい しそんまつだい て

(52)

いま にちれんとう

たぐ

なんみようほうれんげきよう

とな

たてまつ

もの

みな

今、日蓮等の類い、

南無妙法蓮華經と唱え奉

る者は、皆

じゆ るるい

地涌の流類なり。

(095 御義口伝上下 1046 ページ 15 行)

つうかい

「通解」

いま にちれん

でし

なんみようほうれんげきよう

とな

もの

すべ

今、日蓮とその弟子のように、

南無妙法蓮華經と唱える者は、全て

じゆ ぼさつ るるい

地涌の菩薩の流類なのである。

いけだせんせい おく ししん

池田先生が贈る指針

だんけつ　むてき　ちから  
● 団結こそ無敵の力

そうか　どうし　ひとり　のこ　いだい　しめい　お　おど　で

創価の同志は、一人も残らず、偉大な使命を帯びて躍り出

じゆ　ぼさつ　ごほんぶつちよつけい　われ　だんけつ　むてき　ちから

た地涌の菩薩だ。御本仏直系の我らの団結は、無敵の力

ばんじ　じよう　いたいどうしん　かなめ　けいけんゆた

で万事を成ずる。この異体同心の要こそ経験豊かな

ふくやくしよく　ほうゆう　とも　こうふ　ちか　ふしぎ　しゆくえん

副役職の宝友である。共に広布を誓い、不思議な宿縁で

むす　じた　ひし　こころ　すいぎよ　おも　な

結ばれている。「自他・彼此の心なく、水魚の思いを成し

く　らく　わ　あ　りっしやうあんこく　きようしん

て、苦も楽も分かち合い、立正安国の共進を！

不思議なもの 不便 ご供養 そうろう にちれん

かかるふしぎの者をふびんとて御くようの候は、日蓮が  
かこ ふぼ せんぜ しゆくじゅう

過去の父母が、また先世の宿習か。おぼろけのことにはあ

うえ あめ降 吹 ひと 制 こころ

らじ。その上、雨ふり、かぜふき、人のせいするにこそ、心

頭 そうつら

ざしはあらわれ候え。

しゅじゅのものごしようそく

(318 種種物御消息 1878 ページ14行)

つうかい

「通解」

ふしぎ もの こころ よ くよう

このような不思議な者に心を寄せて、ご供養してくださったことは、

にちれん かこ ふぼ かこせ

あなたが日蓮の過去の父母であるからであろうか、また、過去世から

しゆくえん

うえ あめ ふ

の宿縁であろうか。ただごとではないであろう。その上、雨が降り、

かぜ ふ

ひと せいし

とき

こころざし

風が吹き、人が制止する時にこそ、志はあらわれるものである。

いけだせんせい

おく

ししん

## 池田先生が贈る指針

こうふ

ひび

えいえん

ふくとく

## ●広布の日々に永遠の福德

こうふ

つ

いの

こうどう

だれ

し

ごほんぶつ

広布に尽くす祈りと行動は、誰が知らなくとも、御本仏が

ごしょうらん

すべ

えいえん

ふくとく

か

くろう

御照覧である。全て永遠の福德に変わる。これほど苦勞の

せかい

しれん

ふうう

むねは

りつしょうあんこく

しがいがある世界はない。試練の風雨に胸張り、立正安国

はし

ぬ

ぜんほうゆう

ごしょうさん

ぜつだい

くおん

こころ

へ走り抜いた全宝友に、御称讃は絶大だ。久遠からの「心

いちだん

つよ

おお

しゆくえん

けんぞく

こくど

さち

ざし」を一段と強く大きくし、宿縁の眷属も国土も、幸と

あんのん

みちび

ともども

たた

あ

安穩へ導こう。共々に讃え合つて！

みようもんみようり

す

それがし

でし

な

わ み

名聞名利を捨てて 某が弟子と成つて、我が身には

がふあいしんみよう

しゅぎよう

いた

ほとけ

ごおん

ほう

めんめん

我不愛身命の修行を致し、仏の御恩を報ぜんと面々まで

きようけもう

くようとう

ささ

たも

も教化申し、かくのごとく供養等まで捧げしめ給うこと、

ふしぎ

不思議なり。

まつのどのごへんじ

じゅうしひぼう

こと

374 松野殿御返事 (十四誹謗の事) 1986 ページ14行

つうかい

## 「通解」

みようもんみようり

す

にちれん

でし

わ み

われ しんみよう

名聞名利を捨てて、日蓮の弟子となり、我が身には「我は身命を

あい

ほけきようかんじほん

しゅぎよう

ほとけ

ごおん

ほう

愛せず」(法華経勸持品)の修行をして、仏の御恩を報じようと

ひとびと　みちび

くよう

人々を導き、このように供養をささげるようになったことは、ふしぎ

不思議というほかない。

いけだせんせい　おく　ししん

## 池田先生が贈る指針

して　かがみ

げんぜん

## ●「師弟の鑑」として厳然と

しゃかい　ふうあつ

ひる

たたか

そうねん

ごしょうさん

し　とも

社会の風圧にも怯まず戦う壮年への御称讃だ。師と共に、

みようもんみようり

す

どうし

げんご

おうごんばしら

名聞名利などかなぐり捨てて、同志を厳護する黄金柱で

ししょう

ししょうり

こた

ほうおん

いちねん

つよ

ある。師匠に勝利でお応えする——この報恩の一念ほど強い

あらし

ごと

せそう

げんぜん

しんねん

ものはない。嵐の如き世相だからこそ、厳然たる信念の

せんちよう めいしき ひか そうねんぶ きようせん とも してい ふか

船長の名指揮が光る。壮年部の共戦の友よ、「師弟は深く

たの こうせい かがみ れきし

して楽し」と後世の鑑の歴史を！

しやばせかい にこんとくどう

くに

いぜん

もう

まさ

この娑婆世界は耳根得道の国なり。以前に申すごとく、「当

し

しんど

うんぬん

いつさいしゅじょう

み

ひやつかいせんによ

さんぜん

に知るべし、身土」云々。一切衆生の身に百界千如・三千

せけん

おさ

いわ

あ

ゆえ

みみ

ふ

いつさい

世間を納むる謂れを明かすが故に、これを耳に触るる一切

しゅじょう

くどく

う

しゅじょう

衆生は功德を得る衆生なり。

いちねんさんぜんほうもん

(020 一念三千法門 363 ページ 1 行)

つうかい

## 「通解」

しやばせかい

にこんとくどう

くに

いぜん

の

この娑婆世界は耳根得道の国である。以前に述べたように、「まさに

しんど

いちねんさんぜん

し

いつさいしゅじょう

み

身土は一念三千であると知るべきである」とある。一切衆生の身

ひやつかいせんによ　さんぜんせけん　おさ　りゆう　あ  
に百界千如・三千世間を納める理由を明かしているがゆえに、  
みようほうれんげきよう　みみ　ふ　いっさいしゅじよう　くどく　う　しゅじよう  
妙法蓮華經を耳に触れる一切衆生は功德を得る衆生である。

いけだせんせい　おく　ししん  
**池田先生が贈る指針**

かた　ぶん　くどく　ひろ  
**●語った分だけ功德が広がる**

われ　ちきゆう　みようほう　ふ　じようぶつ　せかい  
我らの地球は、妙法に触れることで成仏できる世界であ  
る。ゆえに声が心を動かし、声が社会を変えるのだ。祈り  
こ　くどく　ひろ　いちねんさんぜん　ほうり　うえ　こくど  
を込めた功德が広がり、一念三千の法理の上から国土に  
へい　わ　あん　のん　きず　すべ　とうと　ぶつ　えん　せい　がん　だい　もく  
平和と安穩が築かれる。全て尊い仏縁となる。誓願の題目

を響かせ、立正安国の語らいを勇氣凜々と！

ひび

りっしょうあんこく

かた

ゆうきりんりん

(56)

にちがつてん

してんげ

たも

ぶつぽう

ちから

日月天の四天下をめぐり給うは、仏法の力なり。

(204 四 条 金 吾 釈 迦 仏 供 養 事 1557 ページ 16 行)

しじょうきんごしやかぶつくようじ

つうかい

「通解」

にってん

たいよう

がつてん

つき

せかい

めぐ

ぶつぽう

ちから

日天（太陽）と月天（月）が、この世界を巡るのは、仏法の力に

よるのである。

いけだせんせい

おく

ししん

池田先生が贈る指針

かな

そうだい

いの

● 「叶わざるなし」の壮大な祈りを

みようほうこうふ

い

われ

だいうちゅう

うんこう

のつと

妙法広布に生きゆく我らは、大宇宙の運行のリズムに則

そうだい

せいめいりよく

ゆげん

いの

かな

り、壮大なる生命力を涌現できる。ゆえに「祈りとして叶

みんしゅう

こうふく

しやか

はんえい

ねが

わざるなし」なのだ。民衆の幸福と社会の繁栄を願う

りっしょうあんこく

いの

こうどう

うちゅう

ほんげん

じひ

がっち

立正安国の祈りと行動は、宇宙の本源の慈悲と合致して

しきしん

にちがつてん

さ ひか

ちきゅう

て

いる。わが色心を日月天のごとく冴え光らせ、地球をも照

いちねん

おお

あか

れんたいかくだい

らす一念で大きく明るく連帯拡大を！

おんいた

ひと

なぜ

に

よろこ

御痛みのこと、一たびは歎き、二たびは悦びぬ。

おおたにゆうどうどのごへんじ

(151 太田入道殿御返事 1358 ページ 14 行)

つうかい

## 「通解」

びようき

ご病氣のことについて、ひとたびは嘆き、ふたたびには悦んだ。

なぜ

よろこ

いけだせんせい

おく

ししん

池田先生が贈る指針

けんこうかくめい

ひび

●健康革命の日々を

だいしようにん

もんか やまい

ほうこく

どうく

み

大聖人は、門下の病の報告に同苦され、わが身のことと

いの

祈いのつてくださつた。その上で、今こそうえ いま変毒へんどく為薬いやくの時ときと喜よろこぶ

だ い げ き れ い

のだと大激励だいげきれいなされている。仏法ぶつぽうは、健病不二けんびようふにである。

み よ う ほう

と な

ぬ

じ た

び よ う く

む か

たじろぐことみようほう となはない。妙法みようほうを唱となえ抜ぬいて自他の病苦じた びようくを迎むか

う

かなら

せいめいりよく

ま

しゆくめいてんかん

なや

え撃うつのだ。必ず生命かなら せいめいりよく力を増まし、宿命しゆくめいてんかん転換なやできる。悩め

とも

はげ

きようがい

ともども

ゆうきりんりん

けんこう

る友ともを励はげませる境涯きようがいともなる。共々に勇氣ともども凛々と、健康ゆうきりんりん けんこう

かくめい

ひび

あゆ

革命かくめいの日々ひびを歩あゆみゆこう！

(58)

そ ぶつどう い こんぽん しん もと  
夫れ、仏道に入る根本は信をもつて本とす。

033 法華経題目抄 (妙の三義の事) 532 ページ 12 行  
ほけきょうだいもくしやう みやう さんぎ こと

つうかい  
「通解」

ぶつどう はい こんぽん しんじん  
そもそも、仏道に入る根本は信心である。

いけだせんせい おく ししん  
池田先生が贈る指針

しょうだい ひと い づ

● 唱題の人に行き詰まりなし

だいもく はちまんしやうぎやう かんじん いっさいしよぶつ がんもく  
題目は「八万聖教の肝心」であり「一切諸仏の眼目」で

むりようむへん　たいくりき　はつき

ある。その無量無辺の大功力を発揮させるのが「信」なの

しょうだい　ひと　い　づ

だ。唱題の人には行き詰まりなし。どんな悩みも祈りに変

きぼう　しょうり　てん　きようがい　おお　ひら

えて、希望へ勝利へ転じ、境涯が大きく開ける。「いかな

やまい　障　きよう　われ

る病さわりをなすべきや」である。今日も我らは、妙法

るふ　いの　とも　いつしょうじようぶつ　だいじきどう

流布の祈りと共に一生成仏の大直道を！

(59)

なんみようほうれんげきよう じぎよう けた わた いま にちれんとう たぐ

南無妙法蓮華経は、自行・化他に亘るなり。今、日蓮等の類

なんみようほうれんげきよう すす たも

い、南無妙法蓮華経を勧めて持たしむるなり。

おんぎくでんじようげ

(095 御義口伝上下 1042 ページ 4 行)

つうかい

「通解」

なんみようほうれんげきよう じぎよう けた いま にちれん

南無妙法蓮華経は、自行・化他にわたるのである。今、日蓮とその

でし なんみようほうれんげきよう すす いっさいしゆじよう たも

弟子は、南無妙法蓮華経を勧めて、一切衆生に持たせているので

ある。

いけだせんせい おく ししん  
**池田先生が贈る指針**

せいめい ひび しんねん たいわ

**●生命に響く信念の対話を**

みようほう

すす

たも

ひとりひとり

えいえん

妙法を「勧めて持たしむる」ことこそ一人一人を永遠の

こうふく

みちび

みち

いま

ににん

さんにん

ひやくにん

じゆ

幸福へ導く道である。今、「二人・三人・百人」と地涌の

れんたい

ひろ

ほま

だんしぶだいがっこうせい

連帯を広げているのが、わが誉れの男子部大学生だ。

にんげんかくめい

じてん

こうせんるふ

こうてん

じぎよう

けた

い

人間革命の自転と広宣流布の公転という自行・化他に生き

そうか

わこうど

とつぱ

かべ

ゆうきりんりん

ゆく創価の若人に、突破できない壁はない。勇氣凛々と、

とも

せいめい

ひび

しんねん

たいわ

友の生命に響く信念の対話を！

そう にちれん でし い ほけきよう しゅぎよう ひとびと

総じて、日蓮が弟子と云って法華経を修行せん人々は、

にちれん そうら そうら しゃか たほう じつぽう

日蓮がごとくにし候え。さだにも候わば、釈迦・多宝・十方

ふんじん じゅうらせつ おんまも そうろう

の分身・十羅刹も御守り候べし。

しほさつぞうりゅうしょう

(141 四菩薩造立抄 1341 ページ 3 行)

つうかい

# 「通解」

そう にちれん でし い ほけきよう しゅぎよう ひとびと にちれん

総じて日蓮の弟子と云って法華経を修行する人々は、日蓮のよう

しゃかぶつ たほうぶつ じつぽうふんじん しょぶつ

にきなさい。そうするならば、釈迦仏、多宝仏、十方分身の諸仏、

じゅうらせつによ かなら しゅぎ

十羅刹女も必ず守護されるにちがない。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

してい みち どうどう あゆ め

### ●師弟の道を堂々と歩み抜け

にちれん

そうか してい たましい

「日蓮がごとく」——これが、創価の師弟の魂である。ゆ

なに

びどう

だいなん

えに、何があるうとも微動だにしない。いかなる大難にも、

さんぜじつぼう ぶってん げんぜん まも

わたし いま

三世十方の仏天から厳然と守られてきたのだ。私は、今も

ひび きょうちゆう とだせんせい たいわ

だいしようにんちよつけつ

日々、胸中の戸田先生と対話をしながら、大聖人直結

じしやくこうせんる ふ みち あゆ め

してい みち

の慈折広宣流布の道を歩み抜いている。この師弟の道こそ、

えいえん

い づ

しよがんじようじゆ

むじようどう

永遠に行き詰まりのない。所願成就の無常道であるから

だ。

あいかま

あいかま

こころ

ひるがえ

ひとすじ

しん

たも

相構えて相構えて、心を翻さず一筋に信じ給うならば、

げんぜあんのん

のち

ぜんしよ

しよ

「現世安穩にして、後に善処に生ず」なるべし。

うえのどのごしようそく

しとくしおん

こと

(305 上野殿御消息 (四徳四恩の事) 1852 ページ14 行)

つうかい

# 「通解」

だん

こころ

ひるがえ

みようほう

ひとすじ

しん

げんせ

断じて、心を翻さず、(妙法を)一筋に信じていくならば、「現世

あんのん

らいせ

よ

ところ

う

ほけきようやくそうゆほん

は安穩であり、来世には善い所に生まれる」(法華経薬草喩品)と

なっていくのである。

いけだせんせい おく ししん  
**池田先生が贈る指針**

ぎやつきよう ま ふたい しんじん

● **逆境に負けぬ「不退の信心」を**

わか なんじようときみつ ほうおん みち しめ てがみ むす

若き南条時光に、報恩の道を示されたお手紙の結びであ

しんこう さいごく しんねん くなん ゆ

る。信仰とは最極の信念だ。どんな苦難にも揺るがない。

しんこう むげん きぼう ぎやつきよう かえ ひと

信仰とは無限の希望だ。どんな逆境をもはね返せる。一

ひと いの め へんどういやく ちえ ゆげん ひとすじ

一つ祈り抜き、変毒為薬の智慧を涌现するのだ。一筋に

ふたい しんじん つらぬ みようほう こうだいむへん くりき ちちはは

「不退の信心」を貫き、妙法の広大無辺の功力で父母に

こうよう しゃかい あんのん

孝養を！社会に安穩を！

しゅうこうたん

もう

ひと

ゆあみ

とき

さんどにぎ

じき

とき

周公旦と申せし人は、沐浴する時は三度握り、食する時は

さんど吐

たま

聞

われ

うら

たも

三度はき給いき。たしかにきこしめせ。我ばし恨みさせ給う

ぶつぼう

もう

そうろう

な。仏法と申すはこれにて候ぞ。

すしゅんてんのうごしよ

(210 崇峻天皇御書 (三種財宝御書) 1597 ページ 10 行)

つうかい

「通解」

しゅうこうたん

ひと

きやくじん

く

もくよく

かみ

あら

とき

周公旦という人は (客人が来れば) 沐浴して髪を洗っている時

さんど

みず

しば

お

しよくじちゅう

さんど

は

しよくじ

でも三度、水を絞り落とし、また食事中でも三度、吐いて食事を

ちゅうだん

きやくじん

ま

き

わたし

中断した (客人を待たせなかった)。しっかりお聞きなさい。(私

にちれん い

き

しっぱい

わたし うら

へ日蓮の言うことを聞かずに失敗しても）私を恨まないようにし

ぶつぽう

なさい。仏法というのは、このことをいうのである。

いけだせんせい おく ししん

## 池田先生が贈る指針

ゆうじょう じんせい たから

## ●友情こそ人生の宝

たんき しじょうきんご いまし

ごせいくん

れいぎ せいじつ

短気な四条金吾を戒められた御聖訓である。礼儀と誠実、

まごころ はいりよ じょうしきゆた

にんげんせい

ふ ま

真心の配慮―常識豊かな、人間性あふれる振る舞いにこ

ぶつぽう せいしん みやくどう

よ しみん

ちいき

そ、仏法の精神は脈動する。「良き市民」として、わが地域

いころ

いこうりゆう

ひろ

なつ

きゆうゆう

かた

ふか

に心の交流を広げる。懐かしい旧友と語らいを深め、

あたら　とも　えん　むす　ゆうじよう　じんせい　たから　しんらい

新しい友と縁を結ぶ。友情こそ人生の宝であり、信頼こ

せいめい　ほま

たしや　そんけい　そうめい　ぜん　こうゆうろく

そ生命の誉れである。他者を尊敬し、聡明に「善の交友録」

つづ

を綴りゆこう！